電子黒板授業レポート

アブダビ日本人学校

2020 年　12 月８日（火）　２限 9:15～10:00　報告者　バイヤーズ　紀代美			
【学年　教科　指導者】　小学１年生　さんすう　玉井葉子			
【授業内容・単元名等】 おおきい　かず		【本時のねらい】 １００までの数や系列の大小を理解する。	
時間	授業の流れ・学習活動	児童の学習の様子、指導内容、電子黒板活用場面	
０ １０ ２０ ３０ ４３	１　本時の課題をつかむ。 ・数直線（かずのせん）を見て、気付いたことを発表する。 かずのせんで　しらべよう。 ２　数直線を使って、基準の数と大、小、方向を考える。 ・数直線を見て、数がどう変わるかを調べる。 ３　数直線を使って、数の大小を考える。 ４　数直線を見ながら、数の系列を考える。 ・数の変わり方のきまりを見つける。 ５　本時のまとめをする。	・電子黒板に表示された数の線を見ながら、気づいたことを発表した。 ・教科書の問題が表示された電子黒板を見ながら、一つずつ問題を解いていった。子供たちは、手元にある教科書と同じ画面を見ながら答えを確かめていくので、とても分かりやすく答え合わせができていた。 ・子供たちが前に出て、答えを書いたり、どのように答えを導き出したかを説明したりした。電子黒板のはっきりした画面は、とても見やすかった。子供たちもよく集中し、友達の意見を聞くことができていた。 ・タッチパネルで示しながら発表することにより、子供たちの積極的な態度が見られた。 【電子黒板活用場面の写真】 	
		【児童生徒･報告者の感想 電子黒板導入で可能となったこと等】 ・電子黒板では、数の線の細かい長短もはっきりと示されたので、子供たちの深い理解につながった。 ・子供たちがパッチパネルの大きな画面の前で説明することにより、分かりやすく伝えることができていた。	
【授業者の自評と研修会で出た意見】大事な所は拡大する、繰り返すなどして、数の線をしっかり理解させることができた。子ども同士で一緒に考えたり、話し合ったりする場が広がった。			

電子黒板授業レポート

アブダビ日本人学校

2020 年　12 月 10 日（木）		報告者　佐藤 康二	
【学年　教科　指導者】	小学 5 年生	社会	佐藤康二　教頭先生

【授業内容・単元名等】	【本時のねらい】
・新しい社会　5 年下 「自動車を作る工業」	・工業全般に興味関心を持ち、主体的に工業に関わる言葉を使ってかるたを作ることができる。

時間	授業の流れ・学習活動	児童の学習の様子、指導内容、電子黒板活用場面
0	導入 前時の復習 宿題の発表	・前時からの宿題であった、工業についてのかるたを電子黒板に一人ずつ書いた。タッチペンを使って意欲的に書く姿が見られた。 ・3 つのかるたの文字の色を変えることで、他の児童にも見やすくなった。
15		・小さな PC 画面とは違う大型画面に正対でき、姿勢正しく見ることができた。
	かるたにか書かれた工業に関わる用語の説明を聞く	・教師がタッチペンで言葉や記号を付け加えながら、かるたに書かれた用語の説明をすることで、それらを集中力をもって聞くことができた。
30	日本の工業の特色と強みを知る	・教科書を大画面に映し、教師がタッチペンで指し示しながら説明することで、児童は前をしっかり見て説明を聞いたり、大きな写真を見て理解を深めることができた。
	復習動画視聴	・日本の町工場の動画を視聴することで、日本の工事現場の様子を具体的に知ることができた。
45	まとめ	【電子黒板活用場面の写真】
		【児童生徒･報告者の感想　電子黒板導入で可能となったこと等】 ・文字の色を変えることができて、大変見やすかった。 ・電子黒板の操作自体が学習の一環となった。 ・クラスメイトに説明するとき、タッチパネルや画像を大きな画面で見せて、分かりやすく伝えることができた。

【授業者の自評と研修会で出た意見】
・いろいろな機能を使いすぎない方が、子どもには分かりやすい。
・子どもに主体的に使用させることで、授業意欲がわく。

電子黒板授業レポート

アブダビ日本人学校

2020 年　12 月 17 日（木）		報告者　佐藤　康二	
【学年　教科　指導者】	小学 2 年生　教科名　1 限 8:15～9:00		新城 英和　先生

【授業内容・単元名等】	【本時のねらい】
・こくご　2 年下 「冬がいっぱい」 ・絵日記 「ナショナルデーホリデーの思い出」	・「冬」をイメージし、児童が自ら自分の中の語彙を引き出し表現することができる。 ・自分の体験や感想を絵や文章で表現することができる。

時間	授業の流れ・学習活動	児童の学習の様子、指導内容、電子黒板活用場面
0	導入 アブダビで感じる冬、日本の冬について、知っている言葉を挙げる	・大きなスクリーンに冬の画像が出ることで、冬景色に馴染みのないエミラティ児童もその様子を想像し自分の持つ語彙と関連付けることができていた。
１５	唱歌「ゆき」	・教科書にとらわれることなく、スクリーンに映し出される画像と授業者を常に見て、児童全員が顔をあげて授業に集中できていた。
３０	絵日記	・日記を書く際、電子黒板に示される書き方を熱心に見て、それに沿って記入していた。いつも「どこに書くの？」と聞いてくる児童も、電子黒板を見て自分で正しく記入できていた。 ・顔をあげてスクリーンや授業者、他の児童とのやりとりに参加する時間から、手元に集中する作業へと変わり、児童たちは容易に切り替えができ集中できていた。
４５	まとめ	【電子黒板活用場面の写真】 【児童生徒・報告者の感想　電子黒板導入で可能となったこと等】 ・電子黒板を見る児童のワクワクしている様子が伝わってきた。 ・集中して意欲的に授業に参加できている。 ・話を聞く姿勢、取り組む態度が良くなった。 ・「わからない」「見えない」が無くなり、授業内容以外での質問がかなり減った。児童の課題への取り組みがスムーズになった。

【授業者の自評と研修会で出た意見】
・知識量の多い子、少ない子がいる中、インターネット環境下で電子黒板を用いることで知らない言葉をすぐに調べイメージを持たせて授業することができる。

電子黒板授業レポート

アブダビ日本人学校

2020 年　12 月 21 日（月）		報告者　佐藤康二	
【学年　教科　指導者】	小学４年生　社会　２限　9:15～10:00	久須美　克典	
【授業内容・単元名等】 ・新しい社会　3.4 年下 「わたしたちの県」	【本時のねらい】 ・兵庫県の特色について発表し、意見を伝え合うことができる。		

時間	授業の流れ・学習活動	児童の学習の様子、指導内容、電子黒板活用場面
０	導入 前時の復習 グループ発表準備 １５　グループ発表 ３０　質疑応答 フィードバック ４５　まとめ	兵庫県の特色について、2―3人のグループで調べ学習を実施してきており、グループごとに発表の準備と練習。 兵庫県の特色についてのグループの発表。 電子黒板に自分たちが作成した地図の写真を示し、ポインターで説明箇所を示しながら発表した。 兵庫県の土地利用についてのグループの発表。 電子黒板に自分たちが作成した地図の写真を示し、ポインターで場所を示しながら、市街地の場所や、山の位置などを発表した。 兵庫県の交通についてのグループの発表。 新幹線や幹線道路等を書いた地図を電子黒板に示し、発表をした。 大きく拡大された地図を見ることができるため、聞いている児童にとって分かり易かった様子。 【電子黒板活用場面の写真】 【児童生徒･報告者の感想　電子黒板導入で可能となったこと等】 ･小さく書かれていた画像もその都度拡大することで、全児童に読める大きさとなった。

【授業者の自評と研修会で出た意見】
・いろいろな機能を使いすぎないほうが、子どもには分かりやすい。
・子どもに主体的に使用させることで、授業意欲がわく。

電子黒板授業レポート

アブダビ日本人学校

2020 年　12 月 24 日（木）	報告者　佐藤 康二
【学年　教科　指導者】	小学３年生　国語　１限 8:15～9:00　山本　先生
【授業内容・単元名等】 ・国語　三下　光村書籍「三年とうげ」 音読発表会	【本時のねらい】 ルーブリック評価を取り入れた相互評価を行うことで、有用感・達成感を視覚的・聴覚的に味わうと共に、客観的に友達や自分の課題・目標などを認識する。

時間	授業の流れ・学習活動	児童の学習の様子、指導内容、電子黒板活用場面
０ １５ ２０ ４５	導入 音読練習 音読発表 相互評価 まとめ	・画面に映し出された評価項目を見ながら、学習者間で互いの音読の成果を評価した。 ・評価される項目を事前に知ることで、学習者は自身の音読にどのような工夫を施したらよいかを考えることができた。 ・一人が発表した後、各学習者が手を挙げて発表者を評価した。 ・事前に評価項目が記載されたシートを大画面に映し出せるので、授業の入りがスムーズであった。 ・授業者が各学習者の意見を素早く評価シートに反映させることができ、テンポよく授業が進んだ。 ・授業者は説明をしながら文字の色を変え、重要な評価項目を一目で理解することができた。 ・発表者は自身の音読の改善点や良いところをすぐに知ることができた。 【電子黒板活用場面の写真】
		【児童生徒･報告者の感想　電子黒板導入で可能となったこと等】 ・文字の色をすぐに変えることができるので、児童は集中して注意事項を確認することができた。 ・板書の時間が大幅に短縮されるため、多数の児童の意見を聞くことができた。

【授業者の自評と研修会で出た意見】

自己評価だけではなく、相互評価を行うことで、学級の支持的風土ができつつある。さらに評価を見える化することにより、児童の意欲がたかまると共に、共感的に発言する児童が増え、思いやりのフィルターを通して友達を見ることができるようになってきた。

電子黒板授業レポート

アブダビ日本人学校

2021 年　　1 月 12 日（火）　　報告者　佐藤康二	
【学年　教科　指導者】　小学 2 年生　教科名 さんすう 2 限 9:15～10:00　新城英和　先生	
【授業内容・単元名等】 ・新しい算数２下 　図をつかって考えよう	【本時のねらい】 ・テープ図を使って、数字の関係性を理解することができる。 ・自ら考えた数字の関係性をテープ図で表し、そこから式を立てることができる。

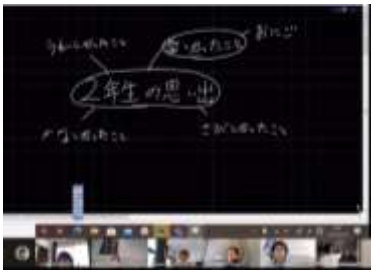
時間	授業の流れ・学習活動	児童の学習の様子、指導内容、電子黒板活用場面
0 １０ １５ ４５	導入 昨日の九九表 宿題の答え合わせ 九九表 テープ図の作成 オリジナル問題の作成 まとめ 復習問題	・電子黒板を熱心に見て、手元の教科書と照らし合わせながら聞いていた。復習の際、前回の授業内容がそのまま表示されたので、児童はすぐに思い出すことができていた。 ・授業者が、見るところを電子黒板に示しながら口頭で指示していたので、児童は視点をすぐにあわせて内容理解に集中することができていた。 ・電子黒板導入前にあった、「どこのページですか？」「どこに書きますか？」「どうやって書きますか？」という質問が無く、授業がスムーズに進んでいた。児童は戸惑うことなく落ち着いて授業を受けることができている。 ・日本語理解に時間のかかるエミラティ児童でも、日本人児童と同じペースで授業についていくことができていた。 【電子黒板活用場面の写真】
		【児童生徒・報告者の感想　電子黒板導入で可能となったこと等】 ・オンラインでは児童が具体的に何に躓いているかが見えないので、後から見ているページが違ったり、ノートへの書き方が間違っていたりして時間がかかった。電子黒板で教科書とノートを同時に見ることができるようになり、エミラティ児童も支援者の手を借りずに落ち着いて授業に参加できるようになった。戸惑う様子や、何をしているかわからず集中が切れた様子を見ることがなくなり、質問も内容に関するもののみとなった。 ・児童は画面を見ることに集中できている。授業者が電子黒板で授業内容を示しながら PC で児童の様子を見てくださっているので、自分たちを見てくれているという安心感もある様子。

【授業者の自評と研修会および保護者会で出た意見】
・オンライン学習が始まり、見えない、分からないことが多く、発問することよりも指示、確認することが多かった一学期、二学期であった。電子黒板を使うことにより、指示する際、具体物を見せながらできることにより、子どもたちが考える時間や発表する時間を確保し、主体的な学びができるようになった。

電子黒板授業レポート

アブダビ日本人学校

2021 年　1 月 25 日（月）　報告者　佐藤康二	
【学年　教科　指導者】　小学 2 年生　教科名こくご　1 限 8:15～9:00　新城英和　先生	
【授業内容・単元名等】 ・楽しかったよ、二年生	【本時のねらい】 ・ウェビングマップを使って、作文を書くためのキーワードをたくさん書き出すことができる。 ・二年生を振り返って、思い出す言葉を気持ちと関連づけることできる。

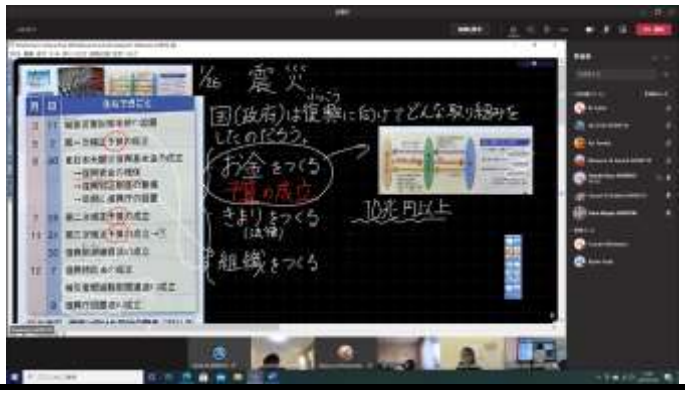
時間	授業の流れ・学習活動	児童の学習の様子、指導内容、電子黒板活用場面
0	導入	
	漢字テスト	・漢字テスト時、問題に取り組む他の児童の様子とタイマーが表示されているので、集中して取り組むことができていた。
１０	音読	
２０	作文についての説明 ウェビングマップの説明	・初めてのウェビングマップだが、説明と並行して作られる過程が電子黒板に映されていたので、児童は一度の説明で理解できていた。
３０	ウェビングマップ作成	・質問が連発することなく、児童それぞれが集中して作成に取り組んでいた。難しいと感じている児童も、授業者の見本を写しながら、自分の言葉を書き加えることができていた。
	まとめ、今後の流れ	
４５		【電子黒板活用場面の写真】 
		【児童生徒・報告者の感想　電子黒板導入で可能となったこと等】 ・オンライン授業であっても、電子黒板の活用によって児童たちの理解度とモチベーションは上がっている。初めての事や難しい事に対しても、不安よりもまずは話を聞こうという前向きな気持ちで、画面を食い入るように見る熱心な姿が見られる。 ・説明の序盤に「わからない」とメッセージを送ってきた児童がいたが、授業後、「その後の説明を聞いてわかったと思う、やってみた」と嬉しそうに話していた。電子黒板によって情報がクリアに伝わるようになり、諦めずに聞く、取り組む姿勢が身についた。 ・オンライン継続でストレスと疲労がたまっているようにも見えるが、授業がわかる、友だちの顔や取り組みの成果が見えることで、共に学んでいることを感じ継続して頑張ることができている。

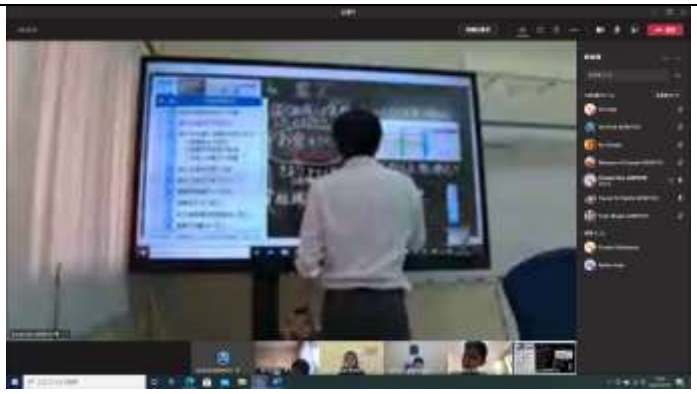
【授業者の自評と研修会で出た意見】
・低学年の児童に対して初めての取り組みを行うのは、かなりハードルが高い。一学期は断念していたが、電子黒板を用いて具体的に見せることができるため実践することができた。
・子どもたちが作文を作成する準備として、考えをまとめることができた。

電子黒板授業レポート

アブダビ日本人学校

2021 年　　1 月 26 日（火）　　報告者　佐藤康二	
【学年　教科　指導者】　小学 6 年生　社会　5 限 13:15～14:00　木津陽介先生	
【授業内容・単元名等】 ・新しい社会 6 政治・国際編 「震災復興の願いを実現する政治」	【本時のねらい】 ・東日本大震災の復旧、復興に向けて、国は法律に基づきどのような取り組みを行ったのかを理解する。

時間	授業の流れ・学習活動	児童の学習の様子、指導内容、電子黒板活用場面
0	前時の復習	・前時の学習課題の「災害にあった人々の願いは、どのような人たちの、どのような働きによって実現されたのか」について、出し合った意見を確認した。 ・前時の板書がそのまま残っているので、学習内容をすぐに思い出し、本時の学習課題につなげることができた。
１０	本時の学習課題の確認	・教科書の表と板書を同時に画面にわかりやすく示すことで、集中力をもって聞くことができた。
１５	国が復興のために行った取り組みを教科書で確認	・手元の辞書で用語の意味を調べながら、意見を出し合った。 ・教師がタッチペンで重要事項と教科書の表を対応させて板書し、説明をすることで、児童は集中力をもって聞くことができ、理解を深めた。
３０	それぞれの取り組みの具体的な例を調べる	・教科書を大画面に映し、教師がタッチペンで指し示しながら説明することで、児童は前をしっかり見て説明を聞いたり、大きな図や表を見て理解を深めたりすることができた。
４５	まとめ	【電子黒板活用場面の写真】 

<table>
<tr><td></td><td></td><td>  </td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>【児童生徒･報告者の感想　電子黒板導入で可能となったこと等】
･文字の色を変えることができて、大変見やすかった。
･前時の板書がそのまま残っているので、学習内容をすぐに思い出すことができた。
･教科書の図や表が大画面にすべて映されているので、前を向いて集中して聞くことができた。</td></tr>
<tr><td colspan="3">【授業者の自評と研修会で出た意見】
・いろいろな機能を使いすぎない方が、子どもには分かりやすい。
・子どもが見るべき視覚教材をできるだけ一か所に示すことで、子どもの集中力を高めることができる。</td></tr>
</table>

電子黒板授業レポート

アブダビ日本人学校

2021 年　　1 月 27 日（水）	報告者　佐藤康二
【学年　教科　指導者】	小学 5 年生　国語　2 限 9:15～10:00　　木津陽介　先生
【授業内容・単元名等】 言葉について考えよう 「伝わる表現を選ぼう」	【本時のねらい】 〇提案スピーチを行うという学習の見通しをもたせ、提案する内容を決定するための情報を集めさせる。

時間	授業の流れ・学習活動	児童の学習の様子、指導内容、電子黒板活用場面
0	導入 漢字の書き練習 P204～	・電子黒板に書かれた文字がパソコン画面に共有され、はっきりした文字で理解することができた。特に、黒の黒板に白の文字で書くことにより、より鮮明に文字が理解できる。 ・電子黒板の文字を見ながら、自分のノートに書きとることができた。
１５	教科書音読 意図に応じた言葉について理解 伝わり方を考える スピーチで提案するための計画の作成	・教科書のページを左上に映し出すことによって、今、どの単元のどのページの内容を学習しているかが分かりやすかった。 ・イメージマップの図の書き方を実際に電子黒板上で見ることによって、自分のノート上でスムーズに作成することができた。
３０	イメージマップの例の確認 イメージマップの作製 次の時間の説明	・オンラインでの学習ではあるが、実際の学校での学びに近い環境で学ぶことができた。特に、パソコン画面の黒板に加え、画面下に、友達の顔や先生の顔が映るため、表情も確認しながら会話を並行して行っていける。 ・発言をした際には、実際の教室の授業のように、先生が電子黒板に書き込む映像も、その文字も同時に画面上に映し出されるため、自分の意見をしっかり受け取ってもらえた感覚が持てる。
４５	本時のまとめ	【電子黒板活用場面の写真】
		【児童生徒･報告者の感想　電子黒板導入で可能となったこと等】 ・電子黒板に映る自分を意識して、姿勢を正そうとした。 ・電子黒板に書かれた文字が、鮮明にパソコン画面に共有されるため、見やすく、理解しやすい。 ・イメージマップを書く際に、電子黒板上で先生が実際に例を書いてくれて、非常に分かりやすかった。

【授業者の自評と研修会で出た意見】
〇電子黒板に板書することで、児童の意見をすぐに反映することができる。イメージマップの作成など視覚的な支援が必要な場面では児童にとっても分かりやすいと感じた。

電子黒板授業レポート

アブダビ日本人学校

2021 年　1 月 28 日（木）		報告者　佐藤康二	
【学年　教科　指導者】	小学 2 年生　教科名等　朝の会　8:00～8:15	新城英和　先生	
【授業内容・単元名等】 ・絵本読み聞かせ （保護者と児童による）	【本時のねらい】 ・新しい本に触れることで、想像力、集中力、語彙力を養う ・表現力を身につける ・落ち着いて授業に入る態勢を整える		

時間	授業の流れ・学習活動	児童の学習の様子、指導内容、電子黒板活用場面
0 3 １０ １５	導入 挨拶、発表者紹介 動作環境確認 音読 お礼、感想 １時間目の連絡	・読み聞かせを担当する児童と保護者も物語を聞く児童たちも、とてもわくわくしていた。聞く児童やその兄弟の顔が画面に映ることで、みんなが聞いているという喜びと緊張感が伝わってきた。 ・絵を見ながら物語を聞くことができ、語彙に自信が無い児童たちも想像力を働かせながら楽しんで聞くことができた。 ・兄弟たちも本に関心を持ち覗き始めることで、児童がこの活動に対して誇りを持ち、良い姿勢でより集中して聞こうとしていた。 【電子黒板活用場面の写真】 【児童生徒・報告者の感想　電子黒板導入で可能となったこと等】 ・オンライン授業が続く中、とても良い親子活動の場となっている。他の児童も、「自分もやりたい」と、読書や発表への意欲が高まり相乗効果が生まれている。 ・新しい本を手にする機会が失われている中、新しい物語に触れる良い機会となっている。電子黒板を使うことによって、本が児童にはっきりと映り、より児童が本の世界に引き込まれている。 ・教員、支援者側が、児童一人ひとりの様子を落ち着いて見る事ができ、普段と違う角度からの児童理解につながっている。

【授業者の自評と研修会で出た意見】
・保護者への事前研修で Keynote アプリの使い方を説明したり、Teams アプリでの画面共有の仕方を説明した。保護者が前向きに準備してくださり、児童やその他の家族も楽しむことができて本当に良かった。
・今後は更に発展させ、保護者が家庭から発信し、子どもは学校でも見ることができる。また、在外の子どもたちに日本から読み聞かせをしてもらうなど新たな取り組みをしていきたい。